

目的 多くの人々に適合する被服を設計するためには、まず、自然立位姿勢における個々の部分体型の特徴を把握し、分類することが重要であると考え、前年では、背面形状をとらえ報告したので今回は、胸部形態もとりあげ、モアレパターンによる分類を試みた。また、胸部の複雑な曲面を平面に展開する際の構造線の設定と分類した形態特性に適合する並体化の方法を検討することを目的とした。

方法 実験機器および実験方法は前年と同様である。被験者は20～21才の成人女子100名であり、撮影期間は1978年5月7日～31日である。まず、前面のモアレ写真からモアレパターンによる乳房の形態分類を行い、さらに、乳頭を通る縦断、横断形状を求め、胸部傾斜角および乳房の基底について検討した。次に、乳房を円錐形とみなし、基底から乳頭までの距離と基底の半径とを測り、平面に展開したときの中心角を算出して乳房の大きさを類別した。

結果

- 1) 乳房の形態はモアレパターンにより6分類することができ、Martinの示した4形態に加えて、乳頭の位置が他と著しく異なる2つのタイプがみられた。
- 2) 乳頭から乳房下縁までの距離を乳頭からと方に取、た位置は、乳頭線位における胸部傾斜線の交点と一致し、この位置を乳房の基底と考えたことが解った。
- 3) 乳房はほぼ円錐型とみなすことができ、さらに、中心角が前面におけるダーツ量と深くかかめることが認められた。